

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071200770		
法人名	医療法人社団 飯盛会		
事業所名	グループホーム いいもり		
所在地	〒819-0037 福岡県福岡市西区飯盛664番地1		TEL 092-811-9080
自己評価作成日	令和 元 年07月17日	評価結果確定日	令和元年09月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和 元 年08月23日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境を活かし、日々の散歩の中で季節の移り変わりを感じることができ、庭に桜や梅の木があるため、花見や梅の実拾い、梅ジュース作りを行っている。職員も入居者の要望を出来る限り受け入れ外出支援等を行っている。又、職員の離職率が低く、変わらない顔ぶれで入居者の方々も安心して過ごして頂いている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム いいもり」は、認知症高齢者が重度化しても慣れ親しんだ地域の中で、家族や関係者に支えられて安心して暮らせるホームを目指し、17年前に開設した地域密着型グループホームである。母体医療法人と往診体制が整った提携医療機関が協力して、利用者の健康増進に取り組み、元気で明るい笑顔を取り戻した利用者を見守る家族の喜びは深いものがある。リビングルームは利用者の日常生活の中心として、季節毎の飾り物を職員と一緒に制作したり、ベテラン職員と昔話に花が咲き、充実した一日を過ごしている。利用者の一日は散歩や買い物に出かけたり、室内では生活リハビリやレクリエーションに取り組み、アクティビティの充実に取り組んでいる。また、管理者は職員への外部研修参加や資格取得を奨励し、職員の質の向上に取り組み、質の高い介護サービスを目指し、家族の評価も高いグループホーム「いいもり」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ひまわり なでしこ ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ひまわり なでしこ ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の唱和とカンファレンスにおいて理念に基づいた目標を毎月立て、実践し月毎に評価している。	毎日の申し送り時に理念を出勤職員で唱和し、職員は、理念の意義や目的を理解している。理念に基づいた目標を毎月設定し、目標達成に向けて職員一人ひとりが努力し、利用者本位の介護サービスの提供に取り組んでいる。また、職員は介護に迷った時には理念を振り返り、介護の原点に戻っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの行事に地域の方々を招き交流している。飯盛神社の行事や町内会の清掃等にも参加している。	ホームの行事に地域の方や家族が参加し、地域の神社の行事や敷地内の清掃、いきいきサロンに利用者や職員が参加して、認知症やグループホームの啓発活動に取り組んでいる。また、外部の講師を招聘し、健康講習会を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、グループホームや認知症について知って頂いたり、外部講師を招き、健康講習を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回会議を開き、地域の方、ご家族、いきいきセンターの方に参加して頂いている。行事、近況報告の他避難訓練や成年後見制度、事故報告などを行っている。又、会議の内容などカンファレンスで話し合っている。	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、インシデントやアクシデントを報告し、参加委員からは、意見や要望、質問などが提案されて話し合い、ホームの運営や業務改善に反映されている。また、会議が参加委員にとっても知識や情報を得る会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開き、話し合いの場を作っている。又、いとの会、金武校区よかネットに参加し、地域の方々との連携に向けた取り組みを行っている。	地域のグループホーム連絡会議として「いとの会」に加入して他グループホームや行政と、連携を図っている。管理者は、ホームの空き状況や事故等を行政に報告し、介護の疑問点や困難事例等の相談を行い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を選出し、院内外研修に参加し得た知識を勉強会で報告、グループホームとしての方針を決め職員全員が共有できるようにしている。入居者の希望に沿って、外出したり散歩に出られる機会を作っている。	身体拘束の職員研修を開催し、外部の研修会に参加した職員が、伝達研修を行い、職員一人ひとりが身体拘束が利用者に及ぼす弊害について理解して、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、「身体拘束をしない・させない」介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、勉強会やカンファレンスにて報告会を開き、職員間でも注意指摘しあえる関係作りに取り組んでいる。又、院外研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加し、得た知識を職員にも報告する場を作り、ご家族に対しても要望があれば説明をしている。	権利擁護制度に関する研修会に職員が交代で受講し、資料やパンフレットを用意して、契約時に利用者や家族に説明している。利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法を分かり易く説明し、申請機関に橋渡し出来る体制を整え、利用者の権利や財産が被害を被らない支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に記載し、契約時に十分説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々入居者様の変化に目を配り、日常的に話を聞く機会を作っている。	職員はホームの日常生活の中から、利用者の思いや意向を把握し、家族面会時に職員が話し合い、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。家族からは意見や要望、気になる事等を聴き取り、ホームの運営や利用者の日常介護に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場リーダーの意見を聞き、現場の意見もリーダーを通じて取り入れている。	職員会議を定期的開催し、管理者は職員の意見や要望が話し易い雰囲気をつくり、何でも話し合える会議である。出された意見は出来る事から、実践出来るように取り組んでいる。また、毎日の申し送りの中で、職員間で気付きや心配な事を話し合い、管理者に相談して解決に向けた取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は常時滞在し、代表者に毎日の朝礼で報告、相談を行っている。代表者は、人事考課にて評価し、より良い職場環境作りに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別・年齢など採用対象にしている。また各職員がその能力を活かし、職員が事故アピールできる場であるよう環境作りに努めている。	管理者は職員の特長や能力を把握し、適材適所に役割分担し、働き易い職場を目指している。外部や内部の研修会に職員が交代で参加し、介護技術の向上を図り、資格取得を奨励し、職員一人ひとりの質の向上に取り組んでいる。職員の募集は年齢や性別の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先して採用している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権擁護委員会に出席、院外研修に参加し他職員へ報告している。	利用者の人権を守る介護の在り方について、外部の研修会に参加した職員が、伝達研修を行い、言葉遣いや対応について常に職員間で話し合い、利用者がホームの中で、安心して暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の院内研修に全員参加し、職員ごとに必要とされる外部研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いとの会(GH情報交換会)に加盟しており、情報を共有している。又、4.7ネットに(西第4.7医療福祉ネットワーク研修会)の研修会や協会、市などが主催の研修会にも参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長各職員が目配り、声を掛け、気にかかる方には個別の時間を作り、話を聞き関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃からご家族の意向を聞き、その意向を反映するようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談しながら必要なサービスを利用できるよう努めている。ケアプランを説明し、コピーを渡している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での出来る事(炊事・洗濯・掃除)を職員と一緒にしながら、その日その日の生活を共有している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会やその他の行事にご家族と一緒に過ごせる機会を作り、情報交換を密にし、コミュニケーションを取りながら、ケアにも参加してもらえよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類との電話の取次ぎを行っている。またいつでも訪問出来るようにしており、敬老会や花見等交流の機会を作っている。	利用者の親戚や友人、知人の面会を歓迎し、ゆっくり寛げる場所やお茶を提供して、何時でも面会出来るように支援している。また、利用者の行きたい所や会いたい人を聴き取り、家族と相談して利用者の希望が実現出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士の散歩や食事の席を同じにしたり、家事参加を呼びかけ合い、入居者様同士がかばい合い支え合っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には契約書に沿った説明を十分に行い、退去後も不安解消の為、相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを優先し、出来る限り希望や意向を取り入れるよう努めている。	職員は日常会話の中から、思いや意向を聴き取り、家族面会時に職員とコミュニケーションを取りながら、利用者の健康状態や暮らし振りを報告し、家族からは意見や要望、苦情等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴を大切にしながら、ご本人やご家族からの情報を元にして、把握するよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりが出来ることを出来る範囲で自由に発揮出来るように支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合い、計画作成担当者と受け持ち担当者が介護計画を作成している。面会時等ご家族と面談する機会を持ち、ご本人、ご家族の意向を取り入れるよう努めている。	利用者や家族の要望や気になる事を聞き取り、カンファレンスの中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせて家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の作成を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりのカルテに日々の変化、表情などを記録し、アセスメントを行い状態の変化をスタッフ間で共有している。カンファレンスノートや申し送りノートも活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望を聞き、外出や個々の趣味などにおけるご本人らしい時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣神社の行事に参加している。またカフェやコンビニ、ショッピングモールに出かけ楽しみを見つけ、自分らしく生きて行けるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い、説明情報提供を行っている。又、看取り時は訪問診療を利用している。	利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決定し、併設病院の受診は管理者が同行し、結果を家族に報告し利用者の医療情報を共有している。併設病院の看護師が毎週来訪し、介護職員と連携して利用者の小さな変化も見逃さず、充実した医療連携が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設病院の看護職員が週1回訪問し、入居者様の健康管理、医療活用に活かしている。又、准看護師も所属しており、相談等を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院、近隣病院との交流を積極的に行い説明、情報提供を行っている。地域の病院との情報交換を行い、退院後の対応を含めた相談をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向を取り入れ、職員が出来る範囲で具体策（訪問等）を挙げ、ご家族には十分な説明を行った上で医師を交え、同意書の作成方針を話し合いチームとしての支援が出来る体制を取り入れている。	契約時にターミナルケアについて、ホームで出来る支援と病院でしか出来ない支援について利用者や家族に説明し、了承を得ている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と話し合い、今後の方針を確認し、利用者がホームの中で安心して終末期が過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	院内研修で緊急時の対策を医師または看護師より説明、訓練を受けている。グループホームで起こりうる事故防止と対策を一覧表にして職員の目の届くところに貼っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会で意見交換を行い、マニュアルに沿って年2回避難訓練を行っている。非常食、水や防災備品を備蓄している。	防災訓練を昼夜想定で消防署の指導を得て、毎年2回実施し、消火器や通報装置の使い方を確認し、非常口避難経路、避難場所を確保し、利用者全員が安全に避難誘導出来る支援を行っている。また、非常時に備えて非常食や飲料水を用意し、いざという時に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し、各職員が人生の先輩であるという認識を持ち、常に言葉遣い等に配慮している。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員会議や申し送り時に職員間で常に話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者の個性や生活習慣に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、入浴や排泄の支援では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介助を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で入居者様と向かい合い、出来る範囲で自己決定を促し、主体的にコミュニケーションを取り、納得いくまで話し合っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様1人ひとりに合ったペースで過ごせるように配慮している。また、入居者様を優先する事を常に意識し、ケアの中に業務を上手く融合している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな洋服を選んでもらったり、職員が身だしなみを整えている。月に1度訪問理容を受けているが、希望者は望む店に行けるようにしている。また外出や行事の時はお化粧をするようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力に応じて、準備や片付けなど協力し行っている。献立で嫌いな物やアレルギーがある時は別メニューで行っている。刻み食やトロミをつけ、ムセなどないよう支援している。	栄養バランスの取れた配食サービスを利用し、利用者の残存能力を活用して、盛り付けや後片付け、食器拭き等を職員と一緒に手伝ってもらっている。利用者の重度化に合わせて、刻みやミキサー食、トロミ等に対応し、利用者の健康増進に取り組んでいる。おやつ作りや外食も採り入れ、利用者の健康の源になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量や水分のチェックを行っている。摂取量の少ない人には十分取って頂けるようこまめに声掛けを行い、コップの工夫などを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後の洗面時、食後の歯磨き、入れ歯の洗浄などこまめに促している。又、職員が磨き残しがないか確認し介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、個々のリズムに合わせ、声掛けを行いトイレ誘導を行っている。排泄による不快感を軽減するべく、ご本人合わせたオムツの調節、トイレで排泄して頂ける様努めている。	職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、早めの声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。立位がいつまでも保てるように毎日歩行訓練を行い、夜間帯も出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表の活用、職員が重要性を理解し、普段から水分摂取や運動を意識し、個々に応じた薬の調節を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望を取り入れ入浴出来るように取り組んでいる。拒否が見られる方には声掛け、タイミング、足浴等工夫している。	入浴は利用者の体調や希望を聴きながら、週2～3回の入浴支援に取り組んでいる。湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者の思いや意向を聴きながら、健康チェックを行い、楽しい入浴支援に取り組んでいる。入浴が困難な利用者には、時間を変更したり、職員が代わって声掛けし無理な場合は清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の運動や入浴、レクなど過ごし方を見直し、馴染みの寝具を利用したり、飲み物を用意するなどし、安心して自然な眠りにつなげられるように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、お薬手帳をカルテに保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。申し送りを徹底、職員一人一人が薬の目的、重要性を理解し支援を行っている。又、服薬の際は複数の職員で声出し確認を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の活動の中に散歩や体操レクを取り入れ趣味や生活歴を活かし、家事、手伝い、カラオケ、歌番組、民謡サークルなどその方に合った楽しみを見つけ支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、毎日近隣に散歩に出かけ、外食やドライブを企画し、ご家族参加での花見、忘年会を実施し、交流の機会を作っている。	天気の良い日を利用して近隣の散歩に出かけ利用者の気分転換を図っている。毎月外出レクリエーションを計画し花見や買い物、外食やドライブに出かけ、家族にも声掛けし、利用者の生きがいに繋がる外出支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じ希望や必要があれば、カフェにパンを買いに行ったり、ショッピングセンターに衣類や雑貨を一緒に買いに行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり、電話を取り次ぐようにしている。季節の挨拶や行事のお知らせには、ご本人に名前やコメントを書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と入居者が一緒に作った作品を飾ったり、TV前には、ソファを配置し、一緒にくつろぎビデオを見たりお茶やおやつを食べながら話せるスペースを設けている。	2階建ての1階に位置し、利用者が1日の大半を過すリビングルームでは、利用者と職員が季節毎に制作した作品を飾り、体操やりハビリ、歌等で盛り上がり、充実した1日を過している。また、室内は音や照明、温度や湿度、換気に配慮し、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数名が座れるソファや一人がけのリクライニングシートの設置、円卓やテーブルを数か所に配置し思い思いの場所で過ごして頂ける空間づくりをしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や仏壇等を持ち込み写真や思い出の品を作っている。	入居前に利用者や家族と話し合い、馴染みの家具や寝具、仏壇、家族の写真、生活必需品等を持ち込んでもらいレイアウトし、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して穏やかに暮らせる居心地の良い居室である。また、清掃を小まめに行い清潔感のある居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレに手すり、浴槽には手すり、滑り止めを設置している。台所にはIHヒーターを採用し流し台、洗面台は入居者のサイズにしている。		